
ある青年の手記

高比良 柚与

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある青年の手記

【Nコード】

N2648E

【作者名】

高比良 柚与

【あらすじ】

自分の背負う、デタラメな宿命を変えようとする青年の手記。

(前書き)

俺・二ノ宮	啓太↓主人公
奴・捌加賀	来須↓宿敵

自分の人格が他人の手によって奪われるって言うのは、俺的にどうかと思う。何で人格が奪われないといけないんだ。他人^{ヒト}のを奪うくらいなら、自分で造れっつーモンだ。

俺には、二ノ宮啓太^{にのみや けいた}という名前があり、「二ノ宮啓太らしい」といわれる人格がある。俺、前まではただの高校二年生として、普段通り学校行つて、勉強して、寝て、飯食つて、寝て、部活やって、家帰つて、バイトして……。って言う生活を送っていた。そこまでは多分、普通だったんだろっと思ふ。俺的に。

だって、俺ただの人間だし、厄介事だけは誰よりも嫌つてたし。

ある日のバイトでの帰り道、俺は奴と出会った。何もこんな暗い時に会いたくなかったと思う。それに、何で暗い中チャリこいで帰ってる時だったんだろっと思ふ。出来れば昼から夕方辺りが良かった。そしてその日、俺は自分の背負うべき宿命を知った。

自分の宿命、それは【自分自身】と言う物を奴等から護る事だった。

俺には、何もしてないのに、何故かしら敵が数人存在する。その数人を代表して、一人ここで名前を挙げる。俺の超苦手な存在、捌^はつか^{づか}がくるす^{くるす}加賀来須。来須は俺の敵だ。あの忌まわしきバイト帰り。その帰り道に会ったのが、コイツだ。暗かったからか、俺は変な恐怖心を抱いた。だって、アイツ目がイッチャってたんだもん。怖いよ、普通に考えなくても。

来須^{アイツ}が喋ったことを一纏めにしたら、

【来須は俺自身の人格を狙っている】

らしい、意味がサッパリ。狙うなら通帳を狙え。

そんな風な時に、ちよつくら気を抜いたら、俺は幽体離脱した。
幽体離脱と言う幽体離脱ではないんだらうけど……。

俺には兄貴がいる。その兄貴が言うには、その時、俺は人格を奴に奪われていたらしい。怖いモンだったよ。だって、俺宙に浮いてたし。怖いよ、ホント。俺何気に高所恐怖症だし。

俺の兄貴が言うには、俺が人格を奪われたのは、今んとこ三回らしい。何故か俺と同じ宿命を背負ってる兄貴が言うには、俺がこうして生きているのが全く分からない。らしい。俺だって知らないし……。

だが、俺の宿命ではつきりしているものがある。

一つ目は、自分自身——俺の人格を護ると言うこと。

二つ目は、来須達、俺の宿敵を倒すと言うこと。

三つ目は——、多分あるんだらうけど、まだ分かっていない。

多分、三つ目は——

とか何とか言ってる時に、来須が来やがったし。俺が見る限り、今の来須は人^{フランク}形状態だ。次俺自身が来須に奪われたら、今度こそ——

——多分死ぬだろうと思う。それが、今の来須みたいにこんな操り人形みたいになってこの街とかフラフラ歩くんだろうと思う。俺的に。

俺的に、この宿命はデタラメ。何かもう、ヤダ。

こんな宿命背負わされるくらいなら、ピーチ姫を助けに行くマリオになった方がマシだ（ゲームはやったことないけど）。

俺の目的はただ一つ。

来須達を倒して、今、俺が背負ってる宿命を変える。変えて普通の一般市民として生活する。

マリオになる方がまだいい！ あんなオッサンにはなりたくないけど！

宿命を変えるためなら、俺は今日も宿敵、捌加賀来須と闘ってる。

まあ、宿命を変えられるならの話なんだけど……。

——了。

（後書き）

これを書けるのなら、閻魔も書けるだろうと思う方、いらっしやると私は思います。

書いております。ただ単に表現技法が見つからないだけです。何がやりたかったのか、私には不明瞭です。タイトルとあらずじには、手記とありますが、手記風の方がどちらかと言ったら正しいと思います。私的に。

マリオだとかピーチだとか名前を出しましたが、私はゲームをしない方なので分かりません。

喻えですから、別に気にしないで下さい。

読んだ方、感想か評価を知りたいので、出来ればお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2648e/>

ある青年の手記

2011年1月3日18時58分発行